

東北・関東大震災 被災地首長及び避難住民の方々との意見交換/支援物資搬入について

日程 3月27日0800-28日1800

参加者 前原誠司、井戸まさえ、山尾しおり、三村和也

行き先 宮城県南三陸町-宮城県庁-仙台市内-仙台市若林区荒浜地区-女川原発-女川町-石巻市

内容 避難住民の方々からの要望聴取、被災地首長(宮城県知事、南三陸町長、女川町長)との意見交換、現地対策本部激励、支援物資搬入

支援物資 女性用下着、生理用品、ウェットティッシュ、マスク、歯ブラシ、医薬品 他

ポイント

○ 情報のマッチング不足解消が必要

行政と各種ボランティア、各種団体(医師会など)、避難所の間で情報共有が足りないために対応が上手くいっていない事が、震災後2週間経った現時点においても見られる。行政、各避難所、NPO、各種団体の風通しを良くし、情報の流通を良くすることで解決する問題が多くある。その点では、地元議員が地域を回ることの必要性は大きい。

○ 避難住民の要望

「当面の現金の工面」と「仮設住宅」が当面の2大要望。集団疎開は、現時点では地元へ残りたいという思いが強い(離れると、仮設住宅に早く入れない、また、仕事がなくなる、という心配)。漁業従事者も三陸海岸沿いの集落には多く、生業の再建も重大な関心事。

○ 当面の課題

当面の課題として、想定をはるかに超えたがれきの撤去、住民の生活のための資金面の援助、仮設住宅の早期整備に早急に取り組むべき。仮設住宅については、病気や高齢者、乳児などを抱える家庭を優先的にすべき。

○ 復興の視点

想定外の大災害のため、国の全面的な関与が不可欠であることは言うまでもないが、加えて、今回の甚大な災害規模と、特に三陸海岸沿いでは極小な平地に作られた市街地が全て津波で破壊されている現状に鑑みると、災害前の状態にそのまま戻す復興は困難。ゼロからの都市整備の観点で大局的な視点が不可欠。その際、住民の要望(「地元に残りつつ、住まいは高台に移りたい」との声を多く聞いた)と直面する市町村の意見を十分に聞きながら、より広範かつ大きな視点で、都道府県が復興プランをリードすることが必要か。

また、同じように町が壊滅的破壊状態にあっても、住宅地や田畑であった仙台市荒浜地区と、工場地域もある石巻、漁村の南三陸町、原発と共存の女川町では別々の視点からのメニューが必要。

3/27(日) 東北道下り

- 東北自動車道は全線開通しているため、緊急車両指定の措置を警察が行うことは無くなったが、一般車両であっても、宮城県北部までスムーズに移動が可能であった。
- 途中、福島県内の高速サービスエリアにて給油。30分程度並んだ末、給油できたのは2000円分(13ℓ程度)のみ。なお、ハイオクは売り切れ。また、被災地への物資運搬や医療救援関係の車両は、別ラインで優先給油が可能となっていた(当方は支援物資を積んではいたが、一般車両として給油)
- ガソリンを運搬するタンクローリーが東北地方方面に多数走行。今後東北地方のガソリン事情が改善される方向か。
- 途中降雪があったが、概して天候は良かったものの、現地道路はオフロードのため、現地入りの際はスタッドレスタイヤが必要と思料。
- 8時に議員宿舎を出発し、南三陸町に15時着。

3/27(日) 南三陸町市街地



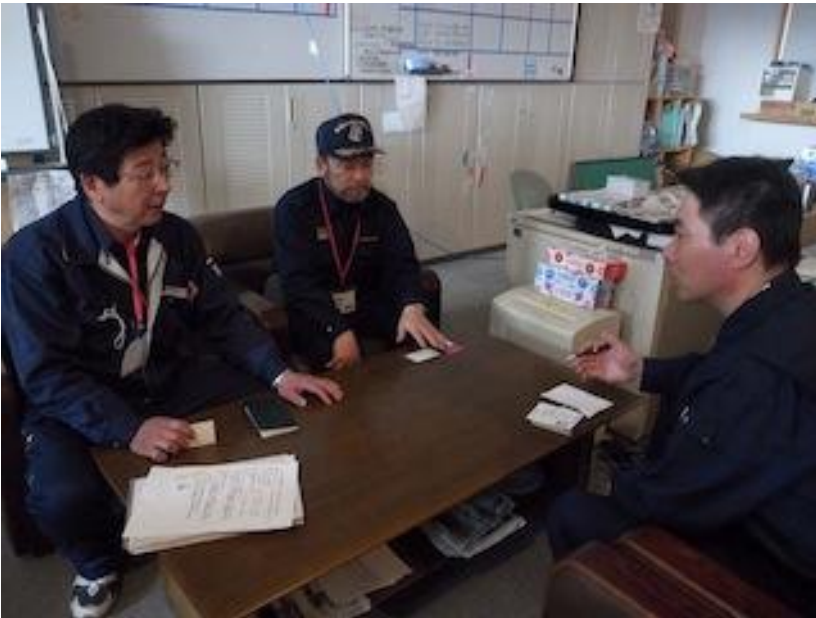
- 震災発生後2週間経過現在において、道路はがれきの撤去が行われているものの、道路以外の全てのエリアのがれき撤去はままならない状態。南三陸町だけを考えても、数ヶ月単位でがれき撤去が終了するとは予想できない状況。

3/27(日) 南三陸町避難所、緊急災害対策本部



○ 南三陸町の臨時町役場/緊急対策本部/避難所となっている町内のベイサイドアリーナへ。

3/27(日) 南三陸町避難所 佐藤町長との意見交換



- 町の被害状況は、5400程度の世帯のうち、4100程度が流出し、約70%の家屋が流出した計算。
- 町長、副町長も、施設の鉄筋に捕まって助かったが、その場で約10名の町役場職員は津波に流された。

3/27(日) 南三陸町避難所 避難住民の方々のお話



1時間以上かけて、避難生活を送る住民の方々一人一人から話を伺う。

3/27(日) 宮城県庁 村井宮城県知事との意見交換



3/27(日) 宮城県庁 災害対策本部激励



阿久津内閣府政務官、市村国土交通政務官を初め政府の現地対策本部のスタッフを激励。

3/27(日) 宮城県庁 医療ボランティアセンター 東北大学上原教授他



ユニセフ、国土舘大学からのボランティア医療救護スタッフからなる医療救護ボランティアセンターを訪問し、意見交換。

3/27(日) 仙台市内 被災住民、避難所を回る医師との意見交換

3/28(月) 仙台市若林区荒浜地区



- 震災後2週間経過も、未だ市街に水がたまっている状態。道路以外のがれきの撤去は進んでいない。家を確認しに来たと思われる人と数名すれ違う。



3/28(月) 女川原子力発電所視察



3/28(月) 女川原子力発電所内避難所



3/28(月) 女川町



○ リアス式海岸の極めて小さい平地部に集落が散在している地域であり、部落はほぼ壊滅状態。

3/28(月) 女川町避難所、緊急対策本部／町長との意見交換



3/28(月) 女川町避難所 避難住民の方々とお話



3/28(月) 石巻市市街地



○石巻市内、特に港近辺の製紙工場等、地域産業の基盤が壊滅状態。

以上